

尼崎JR脱線

会長、社長の辞任明言

井手相談役自らも引責

JR西日本の井手正敬取締役相談役は十七日、尼崎JR脱線事故の責任を取って、南谷昌二郎会長、垣内剛社長とともに辞任することを明言した。時期については「まだ決まっていない」としたが、六月下旬に開催予定の株主総会で辞任する可能性を否定しなかった。神戸新聞社の単独取材に応じた。

(7、9面に関連記事)

三人は一九九二年からは「これだけの事故を起こすまで三代にわたる社長経験者で、井手相談役は当然で、中途半端にはできない」と説明。「三

述べ、三代の社長がいずれも辞任することを明言した。

株主総会を前にした五月下旬の取締役会で三人の辞任も含めた経営責任の明確化について詰める見込みだが、井手相談役は「今は遺族対応な



井手正敬相談役



南谷昌二郎会長



垣内剛社長

た。井手相談役は「今は遺族対応な

どをきちんとするのがトップの責任」とし、補償

や賠償問題への対応を優先させる考えを示した。井手相談役は、旧国鉄改革実践のリーダーで「改革三人組」の一人。社長の後、九七年から六年間は会長を務め、〇三年四月から現職。今月九日に事故現場を初めて訪れ「私にも責任があるかもしれない」と発言していた。

「しかるべき時期に辞任」

垣内社長

十七日の参院国交委で辞任の意思を問われた垣内剛社長は「安全性向上計画、運転再開、風土改革など、私としてきつかけをつけねばならない。それが責任の果たし方」

とした上で「風土改革について三年かかると(以前に)言ったが、そんなに長く(社長を)やるつもりは持っていない。いっことは申し上げないが、しかるべき時期に、そのことについてきちんと致したい」と述べた。末松信介議員(自民、兵庫選挙区)の質問に答えた。